

思い出を収穫する：所沢キャンパス（田んぼ）でお米を収穫する一日 参加者レポート

ピーター・ジェームズ・ローチ
早稲田大学政治経済学部交換留学生



Photo by author

正直に言うと、日本に留学したときに最後にやろうと思っていたことの一つは田んぼで稲刈りをするつもりでしたが、今回の旅行でICCと一緒にまさにそれを体験しました。これは早稲田で勉強していたときの最高の思い出の一つになるでしょう。

当日、私たちは小手指駅で待ち合わせをしました。バスに乗って所沢キャンパスへ向かいましたが、早稲田のメインキャンパスとはまったく違って、東京から遠く離れた

自然の真ん中にあるので驚きました。講義室の一つに行き、その地域の湿地や沼の保全に携わっている人たちから話を聞きました。過去と今後のイベントについて説明を受け、今後も野生の芋掘りが予定されています(詳細については自然環境調査室にお問い合わせください)。



ICC photo



ICC photo

それから私たちは田んぼへ向かって出発し、途中で胴長を受け取りました。到着すると、荷物をビニール袋に入れました。後ですごく汚れたので、そうしておいて良かったです。その後、鎌で稲の茎を切る方法を教わりました。アドバイスを一つ。ICCのイベントに申し込むのをためらわないでください！日本語のレベルや、特定のアクティビティに自分がどれだけでできるとするかに関係なく、関わる人はみんなとても親切で、親しみやすいです。みんなが与えてくれる温かいエネルギーで、すぐに寛げるでしょう。

アイルランドの農家出身の私は、稲刈りの経験はないものの、泥の中はまるで自分の家のようなものでした。最初は水田の厚い泥の中を歩くのはかなり大変でしたが、すぐに慣れました。一緒に来て手伝ってくれた皆さんのおかげで、稲刈りは早く

終わりました。田んぼがきれいになると、次は泥レースです。

泥レースは、田んぼの端から端まで行くというものでした。難しいのは、まるで流砂のような泥の中を走るのは、決して簡単ではないということです。私は3位でしたがそれでも、お金では買えない楽しい思い出になりました。



Photo by author

レースの後、私たちはキャンパスに戻り、泥を洗い流し、装備をきれいにしました。その後、近くのバス停に行き、バスを待っている間に昼食を食べたり、ゲームをしたりしました。全体として、日本で過ごした中で最も楽しい一日でした。私にとって初めてのICCイベントでしたが、今でも一番のお気に入りです。



ICC photo